



「社会保障の為に消費税増税」はペテン？

「高齢化社会となるので福祉が大変だから、消費税増税が必要」福祉の財源に消費税を」と声高にマスコミで騒がれています。

1989年以降、法人税が減税され、この22年間に合計208兆円も減収になりました。でも、その法人税減税の財源は議論もされませんでした。その1989年には消費税が導入され、それ以降22年間の消費税総額は224兆円。つまり「福祉の為に消費税をと云いながら、その収入を法人税減税に回す」と云うペテンだったのです。

今、菅内閣の云うように法人税率を4割も下げたら、税収は9兆円も減ります。でも、その財源の話はありません。先例にならって「福祉の為に云って消費税率を上げ、増えた税収は法人税減税に回すというペテン」でごまかそうと云うのではありませんか？

福祉を充実するにはどうすれば良いのでしょうか？消費税導入前の1988年には所得税の最高税率は60%でしたが、今は40%。そして、法人税率は42%から30%に下げられました。これらの金持ち減税を元に戻せば良いのです。

そんなことをしたら「会社経営が大変」と云う人がいます。でも、法人税は「原材料を仕入れ、労賃を払って、商品として売って得た儲け」にかかる税。商品の値段には関係ありません。法人税で赤字なることはありません。勿論、儲けから法人税を差し引いた残り、内部留保や配当に回す分は減るでしょう。でも、今、法人税を減税したところで、設備投資に廻るのではなく、内部留保や、海外投資に廻るのが関の山。これでは景気向上に資することはありません。

皆さんはどう思われますか？



乳頭温泉の孫六温泉

秋田県仙北市の田沢湖の東方

乳頭温泉の「孫六温泉」は、秋田県の田沢湖駅からバスに約一時間揺られた終点でバスを降り、更に一、二キロ歩いた所にある。一九九八年八月に訪れた時には、前年に豪雨でもあったのか、砂防工事をしていて、その脇を歩いてこの孫六温泉に泊まった。川沿いの狭い谷にそって、いくつかの小さな建物があった。それらは色々な源からの温泉。それらの間にいくつかの露天風呂。周辺のブナの原生林を見上げながら、のんびり湯に浸かった。